



中学校入学式式辞

校長 豊田 由貴夫

入学式では、すでに新緑に

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんはこれから六年間、この立教池袋中・高で学ぶこととなります。中学・高校時代は人生で最も多感な時期と言われます。悩むことも多いかもしれませんが、一生つきあえる友達が出るのもこの中高の時代です。どうか六年間、友達との時間を大切にしてください。入学に際して、立教池袋中・高の理念を話しておきます。今、私たちが過ごしている社会は、非常に複雑になってきています。そしてその変化はますます速くなってきています。海外で起こっていることが、私たちの日本の社会にすぐ影響を与えます。例えば、新型コロナウイルスの問題がその例になります。ウイルスの感染を防ぐために、外出が制限されたり、店が閉められたりしています。経済への影響は甚大です。リモートワークが増え、新型コロナウイルスが収束した後には、産業構造が変わるのではないかとされています。多くの国で緊急の対策がとられています。病気の感染を防ぐためには素早く、適切な対策をとる必要があるのですが、どのような対策が有効なのか、判断は非常に難しいのが現状です。対応に成功した国は力が強くなると言われ、ワクチンの開発とその利用により、世界の勢力図も変わるのでないかとされています。このように、非常に難しい判断を、素早く行うことが要求される、それが私たちの生きている社会なのです。

ではこのような社会で生きていくためにはどうか。そのためには幅広い知識と深い思考力が必要になります。ますます複雑になっていく今の社会を理解するためには幅広い知識が必要で、そして急速に変化するこの社会に対応するためには、深い思考力が必要なのです。このような力を身につけて立教池袋中・高で身につけてください。立教学院では、小学校、中高、大学と一貫連携教育を行っています。そしてここでは、「テーマを持って真理を探究する力」と「共に生きる力」を身につけることを目標としています。「テーマを持って真理を探究する力」とは、主体的にテーマを探し出し、みずから知識を得ようとする力のことです。常に問題意識を持ち、テーマを自分で探し出し、そして自分で情報を収集する力を身につけてください。また「共に生きる力」とは、他者の人間性を理解し、他者の痛みを分かち合う力ということになります。私たちの生活は多くの人によって支えられています。社会で生きていくためには皆さんの人と一緒に活動することが求められます。そのような、周りの人々と協調してリーダーシップを発揮できるような力を身につけてください。池袋中・高の六年間で幅広い知識と、深い思考力を身につけて、これからの社会を支えるような人物になってください。

生き方の基準

中 一組

入学おめでとう。これから、様々なことが起きる中学校生活に期待と不安を感じていることでしょう。そんな中学校生活に「いや、人生で役立つ一つの方法を教えますよ」という事です。自分がどんなことを目指して生きていくかの「判断基準」を決めるのです。もつと「自分が恥ずかしい生き方、うわべだけではない真にかっこいいと思う生き方」ができるようにしよう。行動をする前に「この行動は自分の生き方の基準に合っているか」を考えられると良いと思います。人に心無い言葉をかける時、人に暴力をふるう時、それは本当に自分の生き方に反していませんか？動物的ではなく、理性的に判断できる、真に「強い人間」を目指しましょう。

(二組 砂井博光)

お互いを大切に

中 一組

「互いに愛し合いなさい」(ヨハネ一三章三四節)新しい学校生活が始まりました。人と人とのコミュニケーションにとって重要な「お互いを大切にすること」だと思います。相手を大切にすることは大切にするということ。具体的には相手のことをよくわかり、自分のことも相手にわかってもらうということも相手から、自分の考えや思いを、自分のことばで相手に伝えるのです。一般論や相手への命令でなく、「ぼくはこう思う」という言い方です。立教という学校は聖書の教えをもとに成り立っています。神様は一人ひとりを大切にしてください。私たちが「共に生きる」場をつくってゆきましょう。

(二組 初瀬川正志)

応援される人になる

中 一組

小学校を卒業し、体も心も最も成長する中学二年間で目指してほしいのは、周りから応援される人になるということ。やさしく、自分に厳しく。今までの生活を振り返って、自分の言動や行動を優先して自分さえよければいいと思つたことはありますか。自然なことですが、それだけでは応援される人にはなれません。自分以外のことに目を向け、耳を傾けることを意識してください。人のために一生懸命になれる人になってほしい。そんな人は周りから信頼されて応援されます。自分が本心に苦しむとき、辛いときに手を差し伸べてくれる人が現れます。大切な結果よりも過程なのです。入学おめでとう。

(三組 田部達弥)

立教が大切にしていること

中 一組

これまで異なる経験をしてきた私たちが、共に生活を始めるよとしていいます。これは自分を成長させるチャンスです。私たちは「違い」を認め合い、尊重し合うことで多くを学ぶことができます。立教はその根っこの部分を大切にしてきた学校です。勉強を始める前にもう一つ大事なことがあります。それは、何を求めて学ぶのかということです。イエス・キリストは、神を信じ、その教えに従って人生を歩むことは「地の塩であり、世の光である」と仰っています。私たちが自らの賜物に気づき、磨き、地の塩として世の中のあらゆるものに味を付け、輝かせるために、中学高校生活で様々なことを身につけていきたいと思います。入学おめでとう！

(四組 吉田清典)

高 一組

ゴールからの逆算

今日から高校生活が始まりますが、それは「ゴールに向かって動き出した」ことを意味します。君にとって高校生活のゴールはどこですか？この生活の目的は何ですか？立教大学で高等教育を受ける権利を得られることは、本校の特徴の一つですが、ただ漠然とした意識でこれをゴールにしたのでは、おもしろくありません。今日から始まる三年間には多様な経験が待っています。君たちの心がいつも躍動し、自分で決めたゴールが輝いて見えるような毎日を送ってもらいたいのです。そうすれば、ゴールから逆算した、意義のある一日一日が過ごせるはずです。入学おめでとう。 (二組 梅野伸也)

高 一組

自分の足で歩け

入学おめでとう。高校生活は、どのようなイメージをもっているのでしょうか。高校生活は、君たちが想像する以上に短いものです。最も感受性が豊かで、柔軟に物事を考えることができるだけでなく、どんどん吸収できる最高の年代です。自らが自分の限界を決めてほしいと思います。入学という新たなスタートを切る今こそ大いに挑戦し、これからの長い人生を生きるために必要な力をぜひ身につけてほしいと願っています。最後にニーチェは「高く登りたければ、自らの足を引くよ！高いところへは、他人によって運ばれるな。他人の背中や頭に乗ってはならぬ！」と言っています。 (二組 内田芳宏)

高 一組

自分を見つめて生活を

皆さん、高校入学おめでとう。卒業するまでにしっかりと考えておいて欲しいことが一つ。それは、自分がどういった自分なのか、自分が見つけたいこと。この先決めるべきことがありますが、最終的に卒業して何がしたいのか、自分は何がしたいからこの進路に進むか！という意思をしっかりと持ち、道を決めてほしいと思います。そのための判断材料を沢山提供していきますので、困ったら多くの友人・知人・保護者などの大人と相談して自らの道を切り開いてほしいと思います。今は時期大きすぎます。目標はありませぬ。高くすばらしい夢を描いてみてくだい。 (三組 對馬 剛)

高 一組

未来への糧

新年度にあたり自分の高校時代を振り返ってみました。ボクは早め将来の職業を考え始めた方、夢の実現に向け高校で学習し大学を目指すことにしました。それからバスケットボールが好きになるぞと意気込んでいた。いざ始まった高校の授業には四苦八苦、バスケット部の練習もかなりハード。中学までの違いにずいぶん打ちのめされたもの。それでも学校帰りに立ち寄る公園と元気がなるから不思議だ。あの高校時代に身につけた馬力が、大学時代(正確には浪人時代)から今までのボクの根底にある。これから始まる高校生活、楽しいことも苦しいこともいっぱい。そのひとつひとつが未来への糧となる。しっかりと前を向き、三年間の積み上げをしていこう。 (四組 荻野朝行)

中学新入生のために —心がけて欲しいこと—

小学校時代とちがって交友関係も広がります。放課後のクラブ活動、生徒会活動などで下校の時間帯も変わり、また、授業科目の増加で、家庭での予習、復習の量も増え、そのための時間も必要になってきます。これまでの生活のリズムを、早く中学校生活のリズムに切り替えなければなりません。この切り替えがスムーズにいかないと、遅刻、忘れもの、授業態度、そして持ち物や服装に影響が現れてきます。

① **意欲的・積極的な生活**
自分なりのしっかりした目標を持ち、毎日を生きたりと意欲を持って生活し、ただだらした無気力な生活におちいらないように!!

② **規則正しい生活習慣**
新しい中学校生活に慣れるまでは疲れやすいものです。早寝早起きを心掛け、健康管理に気をつけ、遅

決定し、積極的に参加したいものです。この項については他の場で詳しい説明がありますので、参考にして下さい。

③ **何事にも集中力を**
遊びと勉強の「けじめ」が大切です。貴重な時間を最大限有効に使う工夫をしましょう。特に授業に対する集中力を!!

④ **忘れ物防止のために**
本校では、各種の提出物が多いので、教具教材もちらんのこと、提出物等については期限をしっかりと守って下さい。メモ帳を一冊用意して、整理のメモをとる習慣を身につけて下さい。約束を守れることは生活の基本です。

⑤ **友人を大切に**
自分のわがままを抑え、困っている人や弱い立場にある人に優しい思いやりの気持ちを持つようにしましょう。お互い尊重し合え、友人を大切にすることは、自分の学校生活を楽しくする原動力になります。

⑥ **学校生活を積極的に**
充実した学校生活は、学習活動、クラブ活動、生徒会活動のバランスによって成り立ちます。特性、適性を十分考え、自分の意志で

⑦ **「朝の読書」の習慣を**
読書は心の糧と昔から言われています。一年生では、朝の八時一〇分からは、朝の八時一〇分からは「朝の読書」を実施しています。図書館や先生方から推薦されたよい本を自分からすすんで読んでいきましょ。忙しい朝の十分間をぜひ、「心の糧」の時間としてください。

⑧ **家庭での役割も**
中学生になったのを機会に、今まで親に頼っていたことを自分の仕事に切り替え、家族の一員としての立場を自覚し、自らの責任において、その役割をしっかりと果たして下さい。自分のことを自分で行う身辺的な自立のできないものは、人格的な自立もできないものです。

⑨ **学校生活の心得**
学校の秩序を維持するためにいろいろな規則があります。新入生諸君はルールを守って、楽しい学校生活を送りたいものです。
(赤い冊子「スクールハンドブック」をよく読んで下さい。)

【学校時】
始業・終業などの、時間の区切りは次の通りです。
※水曜日は朝礼のため始業は八時です。

始業	8:20	教科	
学活	8:20~8:30		
1	8:30~9:20		
2	9:30~10:20		
	(モーニングブレイク)		
3	10:35~11:25		
4	11:35~12:25		
	(昼休み)		
5	13:10~14:00		
6	14:10~15:00		

※土曜日は四時間目終了後、昼食・学活を行い、終業となります。
※下校時刻は、土曜日を含め、一七時五〇分です。

【教科担任制】

教科	時数	担当
国語	4	高井・岡谷・佐滝
社会	3	荻野
数学	4	砂井
理科	3	吉田
音楽	1	西澤・村林
美術	1	中仙道
保健	3	田部
技術	2	山口
英語	7	初瀬川・小澤・菊池・橋本(秀・フリーゼン)
聖書	1	佐山
礼拝	1	シユタール・佐山・組主任
学活	1	組主任

中学校では、教科によって先生が変わります。時間割は必ず発表になります。上記が科目と担当の先生です。
選修教科(三時間)については、後日プリントで詳しく説明します。

【弁当】
中学校では給食がありませんので、必ずお弁当を持参して下さい。なおカフェテリアでは、パンや牛乳、おにぎりなどを販売していますが、これはあくまで、弁当を忘れたり、持参できなかったときの便宜的処置です。育ち盛りの中学生には、栄養の点から考えても、手作りのお弁当が必要だというのが、本校の方針です。もし忘れた場合には、午前中の休み時間のうちに、カフェテリアで代金を払って購入することになっていきます。

【欠席の場合】
朝八時〜八時一〇分(水曜日は十分程早め)にまで間に学年の先生に連絡して下さい。

職員室直通の電話番号
03-3985-2713 (中1・中2)
03-3985-2714 (中3・高1)
03-3985-2725 (高2・高3)

▽欠席の場合は、当日必ず電話で連絡し、遅刻・早退の場合には、生徒手帳の連絡欄に記入し、主任の認印を受ける。

保健室だより
▽開設時間—八時〜一七時五〇分(土曜日は一三時二〇分)。ただし、一二時二五分〜一二時四〇分は緊急の場合のみ。
▽利用方法—具合の悪いところをはっきり言って指示に従うこと。また、処置を受けた人は必ず名簿に記入すること。
▽体育見学届—具合が悪くて体育を見学する時は、届の用紙に記入し、保健体育担当の先生の許可を得ること。見学届の用紙は保健室にあります。
▽毎週水曜日の一二時〜一三時三〇分は、校医が来校します。

オリエンテーション
中学新入生諸君は、七日(水)〜一〇日(土)までを、学校生活に慣れる期間として、授業を行わず、担任から学校生活の案内などを行います。詳細は別紙プリントを参照して下さい。

保護者会の御案内
前期の行事予定は、別紙プリントを参照して下さい。早速ですが、四月一日(土)午後二時三〇分より各組教室にて、第一回の組別保護者会を行います。ご出席下さい。
※なお、オリエンテーションおよび保護者会の日程に変更が生じた場合は、別途学校よりお知らせします。

相談室から
ひとりでは悩まず相談しよう
立教池袋中高には、皆さんの心の整理や問題解決の援助をするために相談室があります。学習や進路のこと、家族や友人などの人間関係のこと、自分の健康や性格のことなど、どんなことでも相談に来てみて下さい。内容についての秘密は守られます。
相談申し込みは保健室で受け付けます。

相談室から
ひとりでは悩まず相談しよう
立教池袋中高には、皆さんの心の整理や問題解決の援助をするために相談室があります。学習や進路のこと、家族や友人などの人間関係のこと、自分の健康や性格のことなど、どんなことでも相談に来てみて下さい。内容についての秘密は守られます。
相談申し込みは保健室で受け付けます。

十 今月の聖句

Jesus said to him, "Thomas, because you have seen Me, you have believed. Blessed are those who have not seen and yet have believed."
The Gospel of John 20:29

Jesus spoke these words to Thomas, one of his disciples, after the resurrection. Thomas, forever to be remembered as "doubting Thomas," was the last of the disciples to see Jesus after his ordeal of the Passion. No one experienced more pain and suffering than Jesus had the previous three days, but all the disciples were in a state of extreme anxiety and fear. The week before, their beloved leader had entered Jerusalem triumphantly. People were joyous and elated. They were sure that the arrival of Jesus meant a new era of peace and freedom. He was the Messiah that the people had long been waiting for. But the religious leaders had felt their own position, that is, their authority was very threatened. If Jesus were able to take over, they would be in danger. But they were not happy with just making sure that Jesus was pushed away, they made plans to have him killed. Even better, if he could be killed as a common criminal, then the leaders would be able to securely keep their own position. What they didn't realize is that Jesus had no intention of being a leader like them. His leadership came directly from God and was all spiritual. Also, they were not happy with just killing Jesus, they sought to arrest and harass the disciples who were locked in the rooms they had rented in the city. Remember, they had come victoriously the week before, ready to celebrate the Passover with their Saviour. Now dejected, fearful, hungry, and lost, they had no idea what to do next. When Jesus first showed up, Thomas was away, perhaps trying to find some food for the others. When Jesus came the second time, Thomas could at last meet the wounded, but risen Christ. When he finally saw Him, Thomas was elated; Jesus also was very happy to see Thomas. And he also gave a hint to others; seeing with your own eyes is not necessary to experience the emotion of meeting Jesus. He is here and will come to you if you ask, from your heart. In this time of lingering problems about the virus, let us all spend a quiet moment to ask Jesus to again appear and that our hearts and minds be refreshed by his saving grace.
Chaplain Mark Stahl